

名古屋城天守閣 造営年表

慶長 5 年 (1600) 関ヶ原の戦い

中井正清、五畿内近江6ヶ国の大工・木挽支配を拝命

慶長 6 年 (1601) 家康 第4子松平忠吉を尾張に封じる

慶長 7 年 (1602) 正清 二条城 作事

慶長11年 (1606) 正清 二条城天守 完成

禁裏作事により従5位下・大和守になり、徳川家の御大工に

10月 正清 駿府城 完成 12月に焼失

慶長12年 (1607) 松平忠吉が急死 第9子義利のちの義直を封じる

正清 江戸城天守 完成、同13年 駿府城天守 完成

慶長14年 (1609) 1月25日 家康 清州にて名古屋への転城を指揮

// 14年 (1609) 11月16日 名古屋城の地縄張始まる

// 15年 (1609) 1月9日 家康 名古屋にて縄張りの実施を命じる

木曾谷での伐木が始まる？

// 15年 (1609) 6月3日 石垣普請 根石置が始まる

加藤清正による天守台石垣

// 15年 (1609) 6月10日 正清 名古屋へ

// 15年 (1609) 8月24日 正清 再建駿府城城天守 上棟

// 15年 (1609) 8月27日 天守台石垣工事 完了

// 16年 (1609) 頃 岡部又右衛門、同又七郎、沢田庄左衛門

堀川の測量を行う

// 16年 (1610) 5月11日 作事方9名が奉行にあたる

小堀遠江守政一が天守の作事奉行に

// 16年 (1610) 5月15日 櫓・長屋の鍛冶入札

// 16年 (1610) 6月10日 大和・京の大工が名古屋に召集

作事が本格的に始まる

// 17年 (1611) 6月28日 家康 天守を早々に建てることを命じる

// 17年 (1611) 7月21日 正清 名古屋へ、木材が1/3しか届かず

// 17年 (1611) 8月20～23日 天守の金物の入札

// 17年 (1611) 8月23日 大規模の大工投入

大工351人 木挽き190人の体制

// 17年 (1611) 11月10日 天守外壁の白土壁塗り終わる

// 17年 (1611) 11月21日 上棟 年内にほぼ完成

// 17年 (1611) 12月5日 遠州よりの用材請取 岡部家記

// 17年 (1611) 正清 従4位下に

慶長20年 (1615) 大阪夏の陣

名古屋城天守の造営技術の特徴

当時の最高権限者の命で、当時の最も適任者が関わった造営。

天才的ともいえる小堀遠州や大久保長安の奉行と、城名人と呼ばれた

中井正清が出合ったことがこの名建築を誕生させたともおもえる。

中井正清にとっては天守の建築の最後であり、これまでの城作りの集大成が名古屋城天守といえる。

すなわち名古屋城天守には、法隆寺に代表される古代からの伝統技術と、

新しい時代を担う合理的で実用的な組織と革新技術が融合して造られた。

その結果、名古屋城天守は完成度の高い名建築として後世に伝えられ、

その技術も文化として広く伝わった。

伝統技術 ・ 古代都市を造った造営システムと技術

山と現場をつないだ柚の技術

－伐木技術・造材技術・運材技術・・・積み重ねられた木造の技術

－木割法・規矩法・加工技術（継手・仕口・・・）工法・・・など

革新技術 ・ 技術集団の組織化と分業化、合理的な運用

- ・ 入札制度の導入による経済性と技術の向上

- ・ 精度の高い図面・見積・品質管理

- ・ 材料の規格化・高度な木割法

- ・ 前挽による製材技術の向上

- ・ 大鉋などの道具の向上 など

城は時

城は人 名古屋城叢書 名古屋城雑記 城戸先生の言葉

城は金

注) 当配布資料は検証、承諾等されておりませんので転載等は出来ません。

平成 28 年 9 月 17 日 伊藤平左エ門建築事務所 望月 義伸__